

左岸に土砂運搬専用道 佐久間ダム対策 検討委が提案

中区

佐久間ダムに堆積する土砂の対策工法を検討した委員会。浜松市中区



国土交通省浜松河川国道事務所は15日、天竜川の佐久間ダムに堆積する土砂の対策工法を検討する委員会を浜松市中区のアクトシティ浜松で開いた。重機で掘削した河川内の土

砂の運搬方法として、左岸側に管理用道路を設けて下流に運ぶ案を提案した。冬場などの濁水期に河川内で大型重機が土砂を掘削し、10トタントラックで下流の仮置き場まで運搬する。掘削箇所はダム上流の長野県天龍村近辺。懸念される騒音や振動などの生活環境の対策として、左岸内に新たに仮設の専用道路を設けることで、集落内のタンクトラックの通行を回避する。年間処理量は11万立方メートルを想定する。ストックした土砂は民間業者に活用してもらう。初期費用として道路造成に1億1千万円、年1400万円の運搬費を見込む。

の土砂がダム湖に流入しているとみられ、洪水調節機能を維持するため、堆積土砂の対策が必要とされる。

委員会は天竜川ダム再編事業の一環で、佐久間ダムに洪水調節機能を設け、下流域の氾濫被害を軽減することが目的。佐久間ダムは年間約200万立方メートル

(この記事・写真等は建通新聞社の許諾を得て掲載しています。)

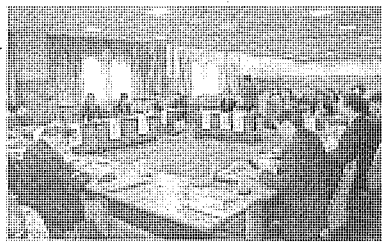
国道河川 天竜川ダム 再編へ協議

恒久堆砂対策
工法検討委

国土交通省浜松河川国道事務所は15日、天竜川ダム再編事業について協議する「第5回恒久堆砂対策工法検討委員会」を浜松市内で開いた。国交

省職員や有識者らが出席した。写真。

田中里佳所長は「地域の皆さんの関心が高い事業。地域の意見も聞きながら着実に進めていきた



い」とあいさつ。委員長を務める京都大学の角哲也教授は「堆砂対策はさまざまな取り組みを組み合わせることが必要となる。協議を通して新たな工法を確立したい」と述べた。

議事では堆砂対策量や工法の実行可能性調査、今後の検討事項などを協議した。

天竜川ダム再編事業は、堆砂対策を実施し佐久間ダムへ洪水調整機能を新たに設けるもの。土砂移動の連続性を確保することで、遠州灘の海岸侵食抑制が期待される。